



□ 開会のことば

秋田県漁業協同組合 代表理事組合長 **加賀谷 弘**

加賀谷弘秋田県漁業協同組合代表理事組合長の「開会のことば」で、式典が始まりました。



□ 主催者あいさつ

全国豊かな海づくり大会会長
衆議院議長 **大島 理森**

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会が開催されるに当たり、主催者として一言御挨拶申し上げます。

天皇皇后両陛下におかれましては、皇太子同妃両殿下の当時から本大会に御臨席を重ねられた上皇上皇后両陛下の御心を受け継がれ、全国豊かな海づくり大会に初めて御臨席を賜り、まことにありがたく存じます。

令和最初の大会が開催されるここ秋田県は、水産物や農山漁村地域の環境・歴史・文化などの魅力にあふれています。秋田県沖は暖流と寒流が流れ込むことから多種多様な魚介類が生息し、ハタハタ、マダイ、イワガキ、ギバサなどはその代表です。これら魚介類は、長年、独特の食文化を育ててきました。県の魚ハタハタについては、資源量の激減を受け、恒常的な資源管理の取組が鋭意続けられていると承知しております。また、秋田県には豊かな森が広がっていますが、海と森の関係の深さについては申すまでもありません。平成15年制定の「水と緑の条例」の趣旨に沿い、水源から河川・湖沼を経て海に至る生態系のバランスのとれた水環境の保全・管理を通じて、持続的な資源の活用が図られていると聞き及んでおります。

秋田の海・川・湖の魅力を誇りとされ、これら各般の取組を基礎としつつ、水産業の振興と地域の活性化が図られることが大いに期待されるところであります。

本大会は、来年は宮城県で開催予定です。東日本大震災から8年半近く経ちますが、今大会と次の大会を通し、東北の元気な姿を国内外に発信してまいりたいと考えております。

また、先般のG20大阪サミットでは、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにする目標などが合意されました。こうした世界的な動きも踏まえつつ、今後とも「豊かな海づくり」のため本大会の発展を図っていくことが肝要であると存じます。

本日、栄えある表彰をお受けになる方々に対し、心より敬意を表しお慶びを申し上げます。また、お集まりの皆様には、次の世代へ豊かな海を継承するため、今後とも御尽力を賜りますよう切にお願いいたします。結びに、大会開催のため力を尽くしてこられた関係者の方々に厚く御礼を申し上げ、御挨拶といたします。



□ 表彰

功績団体表彰受賞者（栽培漁業部門、資源管理型漁業部門、漁場・環境保全部門）及び作品コンクール（作文、絵画、習字）入賞者の表彰式を行いました。

◎功績団体表彰受賞者代表

大会会長賞：秋田県漁業協同組合【資源管理型漁業部門】
農林水産大臣賞：公益社団法人山口県栽培漁業公社【栽培漁業部門】
環境大臣賞：静岡県・北限域（内浦湾）の造礁サンゴ群落保全会【漁場・環境保全部門】
水産庁長官賞：宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉青年研究会【漁場・環境保全部門】

◎作品コンクール受賞者代表

秋田県知事賞：秋田市立桜中学校3年 大山瑠菜【絵画】



□ 主催者あいさつ

秋田県知事 佐竹 敬久

希望に満ち溢れた新しい令和の時代の幕開けに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」を開催できますことは、私たち秋田県民にとりまして、誠に光栄であり、この上ない喜びであります。

御来賓をはじめ、全国各地から御参加いただきました皆様に、心から歓迎を申し上げますとともに、本日、栄えある表彰を受けられる皆様に、心からお祝いを申し上げます。

さて、秋田県は、県土の7割を森林が占めており、この美しい森で育まれた清流は、河川となって肥沃な耕地を潤し、さらには日本海に注がれ、海の恵みを豊かにしてくれます。

対馬海流とリマン海流が交わる本県沖では、県の魚であるハタハタをはじめ、北限の産卵場を有するトラフグ・マダイ、鳥海山の伏流水で育ったイワガキなど、150種類もの魚介類が水揚げされております。

こうした四季折々の海の幸に恵まれた本県では、多様な郷土料理が伝承されており、特にハタハタは、魚醤の一つである「しょつつる」や、「飯ずし」などの素材として、独特の食文化を牽引してまいりました。

また、海には、物流や人々の交流を支えてきた歴史があります。江戸時代には、北前船の寄港地として、上方の経済と文化が行き交うなど、これまで、独自の風土が根付いてきました。

このように豊かな自然や文化、歴史に育まれた本県において開催する大会のテーマは、「海づくりつなげる未来 豊かな地域」であります。

本大会を契機としまして、世界遺産の白神山地や大地を潤す河川、恵みをもたらす日本海など、豊かな自然に感謝するとともに、未来永劫、守り育てる思いと行動の大切さを、将来を担う子供たちにしっかりとつないでまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の御健勝を心からお祈り申し上げますとともに、本日御参加の皆様の御多幸を御祈念申し上げまして、開催県を代表し、御挨拶といたします。



□ 歓迎のことば

秋田市長 穂積 志

本日、ここに天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が開催されますことを、大変光栄に存じますとともに、秋田市民を代表して、心から感謝申し上げます。

また、全国各地から御参加いただきました皆様、ようこそ秋田市へおいでくださいました。心から歓迎を申し上げます。

さて、ここ秋田市は、東に出羽山地を擁し、西に位置する日本海に向けて、雄物川などの河川が流れ、その流域一帯には肥沃な秋田平野が広がる、自然豊かな田園都市であります。その豊富な水資源は、米をはじめとする農作物に加え、四季折々の海産物を地域にもたらしております。

また、秋田港は、廻船式目において日本の十大港湾である三津七湊に位置づけられ、江戸から明治にかけては北前船の寄港地として繁栄するなど、本市発展の礎となりました。

私たちは、これまで多くの恩恵を与えてくれた海や港への感謝の念を胸に刻み、この豊かな海を次世代へ継承する努力を続けてまいります。

結びに、天皇皇后両陛下の益々の御健勝と御繁栄、そして本日御参加の皆様の御多幸をお祈り申し上げます。歓迎のことばといたします。





□ 天皇陛下のおことば



第39回全国豊かな海づくり大会が、日本海に面したここ秋田県で開催されることを喜ばしく思います。

四方を海に囲まれた我が国は、古くから豊かな海の恵みを受けてきました。また、山や森から河川や湖を経て海へ至る自然環境と、そこに育まれる生命や文化は、私たちに様々な恩恵をもたらしてくれま

す。私自身、以前に鳥海山に登った折に、鳥海山の雪解け水がブナ林を養い育て、伏流水となって山麓の田畑を潤し、やがて日本海に注いで良質なイワガキを育てていると聞き、山と海、そして人間との大切なつながりを感じたことを思い出します。

このような豊かな海の環境を保全するとともに、水産資源を保護・管理し、海の恵みと美しさを次世代に引き継いでいくことは、私たちに課せられた大切な使命であると考えます。

この度、初めて全国豊かな海づくり大会に臨み、本大会が、海などの環境保全や漁業の振興、さらには海に関わる文化の継承に果たしてきた役割と意義に思いを致し、大会に携わってこられた多くの関係者の努力に深く敬意を表します。

ここ秋田県においても、特産のハタハタの産卵場所となる藻場を作ったり、マダイやトラフグなどの稚魚を保護し育てるなどの「つくり育てる漁業」を奨励する一方、「しょつつる」など海産物を使った食文化の伝承にも積極的に取り組み、漁村や水産業の振興に努められていると聞き、心強く思います。

本日表彰を受けられる方々を始め、全国各地において日頃から豊かな海づくりに尽力されている皆さんの活動が、今後も多くの人々によって支えられ、更に発展していくことを期待します。

「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマとして行われるこの大会を契機として、海や漁業への理解と関心が更に深まり、豊かな海づくりの輪が、ここ秋田の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。

□ 最優秀作文発表

「海とわたしの家族」

八峰町立八森小学校3年 小林 桜和

わたしの住んでいる町は、海も山も川も近くにある、自ぜんゆたかな所です。家のまどからは、朝は山から出て来る太陽と、夕方は日本海にしずむ太陽を見ることができます。わたしは、夕日がしずむ時に、空と海がオレンジ色にそまるしゅん間が大すきです。とてもきれいです。でも時々、赤くなった夕日がうめぼしのように見えて、思わずくすつとわらってしまいます。

わたしの家のげんかんを出ると、すぐ海が広がっています。その海から、いろんな生き物や海草がとれます。その中で、わたしの家では、ぎばさという海草を加工する仕事をしています。よく夜ごはんの時に、お味そしるに入れたり、なっとうやおとうふとーしょに食べたりしています。ねばねばしていて、とても体にいいそうです。ぎばさをよく見ると、緑と茶色と黄緑色のふりかけのようなつぶつぶがまざって、シャキシャキしているふ思ぎな食べ物だけれど、とても美味しいです。わたしのお父さん、お母さん、おばあさんが一生けん命作っているぎばさをお店で見つけると、ちょっといい気分、自まんしたくなります。また、テレビでも体にいいと放送されたことがあり、もっとたくさんの人に、ぎばさのことを知ってほしいな、と思いました。

わたしのおじいさんは、りょうしをしています。海からとってくる魚のおさし身も大すきです。フライに青のりをかけて食べるのもすごく美味しいです。タコをとってきてくれた時は、お母さんがからあげにしてくれます。タコのからあげも美味しくて、ぱくぱく食べます。

夏になると、わたしのお父さんはアワビのりょうしになります。時々、バターとおしょう油でいためたアワビが夜ごはんの時に出来ます。ほっぺが落ちそうになるくらい美味しいです。

また、冬になると、ハタハタがとれます。きせつハタハタが来ると、町はにぎやかになり、りょうしの人たちは寒い中、ハタハタのあみ外しをします。一びきーびき手であみにひっかかったハタハタを丁ねいにとっていくそうです。わたしは冬が来ると、またこのきせつがやってきたなあ、今年は大りょうだといいなあ、とわくわくした気持ちになります。

海には、たくさんめぐみがあります。お父さんもお母さんも、おじいさんもおばあさんも、家族みんなが、海の生き物たちのおかげで仕事ができます。

わたしの家の海の畑。これからも、みんな元気で海の畑から命をもらって、感しゃして食べたいと思います。そして、魚よりお肉がすきという人がまだまだ多いようですが、魚やぎばさの美味しさやえいようのよさに、日本中の人気がついてくれたらいいなあと感じています。

わたしの元気のみなもとは、家族が作るぎばさ。感しゃして、食べたいと思います。





□ 稚魚等のお手渡し

秋田県立秋田北高等学校生徒の介添えにより、天皇皇后両陛下が稚魚等をお受け者にお手渡しされました。

◎第1回お手渡し

天皇陛下がハタハタの稚魚を秋田県漁業協同組合北浦総括支所北浦地区代表の西方強さんに、皇后陛下がサクラマスの子魚を秋田県内水面漁業協同組合連合会代表理事会長の湊屋啓二さんお手渡しされました。



□ お手渡し魚等



◆ハタハタ

分類:スズキ目ハタハタ科
主な漁法:底びき網、定置網、さし網
県の魚に制定されています。冬季に産卵のため大群で接岸する「季節ハタハタ」は、古くから県民に親しまれており、本県の伝統料理には欠かせない魚です。



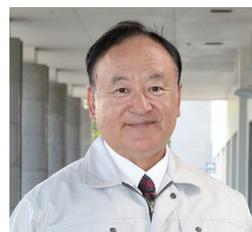
◆サクラマス

分類:サケ目サケ科
主な漁法:定置網、釣り
生まれた川に残ったものは「ヤマメ」と呼ばれます。桜の花が咲く頃に生まれた川に遡上してくることが名前の由来のひとつとなっています。

□ お受け者



お受け者（ハタハタ）
秋田県漁業協同組合
北浦総括支所北浦地区代表
西方 強



お受け者（サクラマス）
秋田県内水面漁業協同組合連合会
代表理事会長
湊屋 啓二

◎第2回お手渡し

天皇陛下がエゾアワビを秋田県漁業協同組合象潟根付委員会代表の齊藤一成さんに、皇后陛下がワカメを秋田県漁業協同組合双六コンブ養殖会代表の三浦幹夫さんにお手渡しされました。



□ お手渡し魚等



◆エゾアワビ

分類:原始腹足目ミミガイ科

主な漁法:潜水漁業

寒冷地に生息しているアワビの仲間で、漁業者は稚貝放流のほか、小型貝の保護や水揚げ量の上限枠設定など、様々な手法で資源の保護に努めています。



◆ワカメ

分類:コンブ目チガイソ科

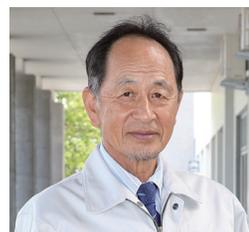
主な漁法:養殖、採藻

本県に自生するワカメは「ボタメ系」と呼ばれ、そのめかぶはアミノ酸が豊富で食味が良いとの評判です。柔らかく粘りのある独特の加工品「トロトロワカメ」も定番のひとつです。

□ お受け者



お受け者（エゾアワビ）
秋田県漁業協同組合
象潟根付委員会代表
齊藤 一成



お受け者（ワカメ）
秋田県漁業協同組合
双六コンブ養殖会代表
三浦 幹夫



□ 海づくりメッセージ

秋田で働く若き漁業者達が、海を守り、育み、未来へ繋ぐ、決意のこもった力強いメッセージを発表し、ベテラン漁業者はその決意に対して、激励のメッセージを発表しました。

【1】県南部の若手漁業者からのメッセージ

佐藤 栄治郎・未来 夫妻(秋田県漁業協同組合員)

佐藤栄治郎:私は、幼い頃から、底曳き網漁師である父の背中を見て育ち、高校卒業と同時に父の船に乗り、漁師としての一歩を踏み出しました。父の後を継げる立派な漁師になることを目標に、これまでは家族や地域の人達に支えられながら頑張ってきましたが、私よりも若い仲間も増え始めた今、今度は、自分が彼らの見本になれるように、努力を続けています。

佐藤未来:底曳き網漁業の舞台となる秋田の沖は、ハタハタ、タラ、カレイ、アマエビ、ズワイガニなど、様々な魚介類がたくさん獲れる素晴らしい漁場です。そして、すぐ目の前には、アワビやイワガキなどに恵まれた豊かな磯が広がっています。私達が暮らしている「にかほ市」は、そんな魅力的な地域です。

佐藤栄治郎・未来:これからも、日々、豊かな海への感謝を忘れず、新しい仲間が増えるよう、力を合わせて頑張っていきます。



【2】県中央部の若手漁業者からのメッセージ

伊藤 徳洋・歩 夫妻(秋田県漁業協同組合員)

伊藤徳洋:私は、秋田県の真ん中、生まれ育った潟上市で、父や兄弟と一緒に、マダイ、タラ、ハタハタなど、様々な魚を獲って暮らしています。特に、夏場に潜って獲るイワガキは、自慢の逸品です。獲りっぱなしでは増えにくい資源を、いつまでも利用できるように、青年漁業士の一人として地域の若手を引っ張りながら、漁場の清掃や害敵の駆除に取り組んでいます。

伊藤歩:私達家族は、消費者の皆さんに喜んでいただけるよう、鮮魚や加工品の直接販売を行っています。特に「棒あなご」と呼ばれ親しまれているクロヌタウナギの加工品は、我が家が誇る特産品です。

伊藤徳洋・歩:子ども達に豊かな海を引き継いで行けるよう、父や先輩達が築いてきた大切な資源と漁場をしっかりと守っていきます。



【3】県北部の若手漁業者からのメッセージ

小林 優大・雅子 夫妻(秋田県漁業協同組合員)

小林優大:私は、緑豊かな白神山地のふもと、海のきれいな八峰町で生まれ育ちました。「ギバサ」と呼ばれ、秋田では昔から親しまれているアカモクという海藻を、海から採ってきて、加工、販売するのが私の仕事です。この大切な資源を、これからも皆さんに届けられるよう、地元の仲間と一緒に、海藻を増やしていく活動も行っています。

小林雅子:今でこそ健康食品として全国から注目されるアカモク。私は、古くから地域に根ざしているこの食文化の継承者であることを、とても誇りに思います。

小林優大・雅子:豊かな海で育まれた、おいしい海産物を、これからも、皆さんに届けられるよう、全力を尽くします。



【4】ベテラン漁業者からの激励メッセージ

杉本 貢 (秋田県漁業協同組合理事)

若い漁師達の、海を守り、育み、未来へ繋ぐ、決意のこもった力強いメッセージ、とても頼もしく感じました。

これからも、その高い志を胸に、大いに活躍されることを期待します。

佐藤夫妻:私たちは、秋田の海に生きていることに感謝して、

伊藤夫妻:豊かな海づくりを实践し、

小林夫妻:未来を担う子どもたちをしっかりつつないでいくことを、

全 員:ここに誓います。



□ 大会決議

豊かな海づくり大会推進委員会会長
全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 **岸 宏**

我が国は四方を海に囲まれ、人々は古来より海と親しみ、豊かな海の恵みを享受してきた。

ここ秋田県は、世界自然遺産の白神山地など雄大な山々を有し、そこから流れ出る清冽な水がやがて日本海へと注ぎ、米どころ秋田を支える肥沃な大地を形成し、豊かな歴史と食文化を培い、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

我々水産関係者には、水産資源を守り育てつつ、安全で美味しい水産食料を安定的に食卓へ提供し、併せて環境・生態系保全の取組により、豊かな海を永続的に育む責務がある。

新たな令和の時代を迎え、ここ秋田県において、「海づくり つながる未来 豊かな地域」をテーマに、豊饒の海を次世代に引き継ぎ、水産業の振興に向けた取組を一層力強く進めていくことをここに決議する。



□ 大会旗引継

佐竹敬久秋田県知事から次期開催県の村井嘉浩宮城県知事に大会旗を引き継ぎました。



□ 次期開催県あいさつ

宮城県知事 **村井 嘉浩**

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、「天皇陛下御即位記念 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が、このように盛大に開催されましたことを、心からお喜び申し上げます。

来年の大会は、宮城県での開催となります。宮城の海には、季節毎に行き交う黒潮・親潮の豊穰な恵みを受けた世界有数の三陸沖漁場が広がり、気仙沼の鰹、石巻の鯖、塩竈の鮪、そして沿岸の牡蠣やホヤ、海苔の生産などにより、全国屈指の水産県として発展してまいりました。

しかし、あの日、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、宮城の誇る水産業は壊滅的な被害を受け、復活に向けた僅かな希望さえ見つけ難い状況となりました。

あれから8年。全国の皆様から頂いた温かい御支援のもと、かつての豊かな海が蘇りつつあります。

来年は我が県の復興計画の最終年となります。この節目の年に開催される大会を通し、復興を果たした宮城の海を皆様に見て頂き、数々の御支援に心からの感謝を伝えたいと考えています。そして、豊かな海を、輝く未来に向け、守り続けていく決意をお示ししたいと思います。

来年は是非、宮城にお越しください。県民一同、心から皆様のお越しをお待ちしております。

結びに、天皇皇后両陛下の弥栄を心からお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



□ 閉会のことば

秋田県議会議長 **加藤 鉦一**

加藤鉦一秋田県議会議長の「閉会のことば」で式典を終了しました。

